

この展覧会、実はかなり難産でした。会期中に横尾さんの80歳のお誕生日を迎えるので、当初我々は「生誕80周年記念」と銘打った企画を考えてたのですが、「そんな風に祀りあげるのは死んでからにしてくれ。自分は現役のアーティストだし、もっと活きのいい展覧会にしたい」と、あっさり却下されてしまいました。横尾さんと何度もブレイン・ストーミングを重ねて、ようやくたどり着いたのが「わたしのポップと戦争」です。



真南に位置する明石の街が空襲を受けること、西脇の雨の夜空が真っ赤に染まった

「戦争」をとりあげた背景には、終戦後70年であった昨年、様々な形でそれを振り返る機会があったことや、安保法案をめぐる議論の高まりなどがありました。ただ横尾さんには、そうした節目のタイミングにこだわらず、戦争の問題は常に顧みられねばならない、という思いがありました。「ポップ」については、昨年来、特に海外の美術館において、60年代のポップアートを、同時代の国際的な広がりのおかげで再検証する大規模な企画展が相次いだことがあげられます。その中で、横尾さんの初期の映像作品や、ピンクガールズ・シリーズが大きく採り上げられました。それはそうとして、もしかしたら横尾さんのなかでは、実はポスターのビジュアルがまず念頭にあったのかもしれない。そう思わせるほど、今回のポスターデザインのインパクトは絶大です(いつも驚かされるのですが、今回はひと際)。



豪華! ピンクガールズ勢揃い

さて「ポップ」と「戦争」とは、一見唐突な組合せです。理屈をつければ、第二次世界大戦とそれ



鑑賞者を照らし出すサーチライトをイメージしたライティング

に続くアメリカ主導による大量消費社会とは、20世紀の物質文明というコインの裏表のような関係性にある、ということになるでしょう。ただ、この「唐突さ」こそが、実は重要であり、極めて「横尾忠則的」なのかもしれません。横尾さんの作品の大きな特徴は、異質なビジュアルがひとつの画面内で衝突し、爆発的なエネルギーを生み出すことです。「わたしのポップと戦争」展は、そうした方法論を、展覧会の構成に援用したのもといえるでしょう。予定調和が破壊されることで、観客が「いったいこの状況はなんなのか」と自問し、アタマをフル回転させざるを得ない状況に追い込まれることが期待されています。準備段階では、二つのパートのコントラストが激しくなることを予想していました。ところが実際に作品を展示してみると、それぞれ相当に雰囲気異なる一方で、想像以上に両者に共通する通奏低音のようなものも感じられました。



1960年代のグラフィック作品、やはり圧巻です

「ポップ」と「戦争」に通底するもの、それは「死」だと思います。「戦争」に「死」がつきものなのは当然ですが、横尾さんの60~70年代のカラフルなグラフィック作品にも、常に「死」の影が見え隠れしています。いわゆる「首つりポスター」として知られる《Tadanori Yokoo》(1965)をはじめとして、《葬列・II》(1969)や一連の《風景》(1969)



オリンピックと万博は戦後復興の里程標だった

Information 次回展関連イベント

ヨコオ・マニアリズム vol.1

2016年8月6日(土)~11月27日(日)
休館日:月曜日
※ただし9月19日(月・祝)、10月10日(月・祝)は開館、9月20日(火)、10月11日(火)は休館
観覧料:一般700(660)円、大学生550(440)円、高校生・65歳以上350(280)円、中学生以下無料
※()内は20名以上の団体および前売(高校生・65歳以上は前売なし)料金
※障がいのある方(65歳以上除く)は各観覧料金の半額、その介護の方(1名)は無料

対談 細野晴臣×糸井重里「夏の夜の夢トーク」

出演:細野晴臣(音楽家)、糸井重里(コピーライター、「ほろ日刊イトイ新聞」主宰)
日時:8月28日(日) 19:00~20:30頃
会場:当館オープンスタジオ
定員:150名(事前申込制)
料金:1,000円

夢の日記を描こう

日時:8月19日(金)13:30~16:00
会場:当館オープンスタジオ
定員:20名
参加費:無料
対象:小学生以上
※小学生は保護者の付き添いが必要
※高校生以上は要観覧チケット
※要予約、応募者多数の場合は抽選
※要予約イベントの詳細申し込み方法や、新規のイベントについては当館ホームページにて発表します

イブニング・ギャラリーーツア

講師:当館学芸員
日時:8月13日(土)、9月10日(土)
いずれも18:00~18:45
集合場所:当館オープンスタジオ
※聴講無料、要観覧チケット

兵庫県立美術館 展覧会スケジュール

特別展
生誕130年記念 藤田嗣治展 一東と西を結ぶ絵画—
7月16日(土)~9月22日(木・祝)
世界遺産 ポンペイの壁画展 | 10月15日(土)~12月25日(日)
県美プレミアム
【特集】時間をひらく 一新収蔵品を中心に
【小企画】美術の中のかたち 一手で見る造形 つなぐ×つつむ×つかむ:無視覚鑑賞の極意
7月2日(土)~11月6日(日)
【特集】彫刻大集合(仮称)
【小企画】ハナヤ勘兵衛の時代デレ!!(仮称)
11月19日(土)~2017年3月19日(日)

その他
2016県展 | 8月6日(土)~8月21日(日)
注目作家紹介プログラム チャンネル7 高橋耕平展(仮称)
10月15日(土)~11月20日(日)
※兵庫県立美術館の特別展・県美プレミアムの有料チケット半券ご提示で、
当館の企画展を団体割引料金でご覧いただけます(詳細はHPなどでご確認ください)

編集後記

4Fの事務所から見渡す摩耶山の緑も日ごとに濃さを増し、いよいよ本格的な夏の到来です。さて、次回展覧会「ヨコオ・マニアリズム vol.1」に向けて、美術館ではアーカイブ資料の調査が進行中。どんな「マニアック」な内容に仕上がるのか、次号の特集にご期待ください!(林)

「横尾忠則 迷画感応術」展開催

会場:彫刻の森美術館 会期:2016年3月19日(土)~8月28日(日)



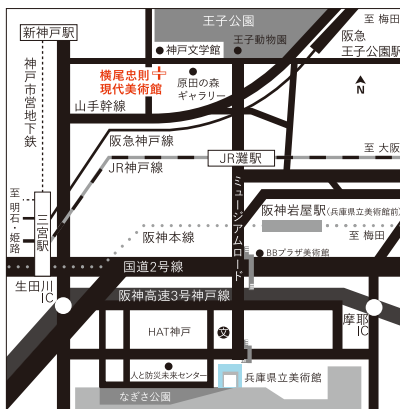
オープニングで挨拶する横尾さん



Y字に分かれた展示会場

2016年3月19日(土)から8月28日(日)まで、箱根の彫刻の森美術館(神奈川県箱根町二ノ平1121)で、“芸術家”をテーマにした横尾作品を紹介する「横尾忠則 迷画感応術」展が開催されています。過去の名画をはじめ、ピカソやデュシャン、キリコ、ピカビアなど私淑する芸術家の作品を様々な形で自作に取り入れてきた横尾さん。会場には、彼らとの交感によって生み出された作品の数々が展示されています。横尾さん曰く、「単なるオマージュではなく、時には悪意を持って描いた作品もある」とのこと。それらは過去の芸術家たちに対する敬意であるとともに、横尾さんによる批評を込めた作品解釈であるといえるでしょう。展覧会では、横尾さんのライフワークであるY字路に、箱根の観光名所や彫刻の森美術館所蔵の作品を組み合わせた新作や、横尾さんが使用している紙皿パレットを車体にデザインした「アートカー」も展示。夏の箱根旅行の際には、ぜひ足をお運びください。

彫刻の森美術館 www.hakone-oam.or.jp 林優 | 本館学芸員



Y+T MOCA

〒657-0837 兵庫県神戸市灘区田通3-8-30
Tel: 078-855-5607(総合案内) Fax: 078-806-3888
www.ytmooca.jp

横尾忠則現代美術館ニュース Vol.13
2016年7月15日発行
編集・発行:横尾忠則現代美術館
印刷:日本写真印刷コミュニケーションズ株式会社

the Y+T Times

横尾忠則現代美術館ニュース

Yokoo Tadanori Museum of Contemporary Art NEWS LETTER



Special Report 横尾忠則展 わたしのポップと戦争

Event Report

- 01 ワークショップ「幻花de速歌」
- 02 イブニング・キュレーターズ・トーク
- 03 「BLITZ AND SQUASH BRASS BAND」

水道筋商店街パレード

Preview

ヨコオ・マニアリズム vol.1

Column

横尾さんの日記

Editors' Choice

MUSEUM SHOP・アーカイブルーム

Information

次回展関連イベント
兵庫県立美術館 展覧会スケジュール



普段にも増して目立つポスター!

Special Report 横尾忠則展 わたしのポップと戦争

横尾忠則展 わたしのポップと戦争
4.16(土)~7.18(日) 兵庫県立美術館 Y+T MOCA

2016年8月6日(土)～11月27日(日)



《パレット D-167》1984-2009 | 作家蔵

Column 横尾さんの日記



1995年6月27日の日記



1997年6月27日の日記



2002年6月27日の日記



2014年6月27日の日記

今年の4月、「ヨコオ・マニアリズム vol.1」の調査のため、横尾さんから日記の一部をお借りしてきました。以来約2ヶ月間、日記からの新たな発見をもとに、当館に保管されているアーカイブ資料や作品との関連を探りながら、出品内容を更新しています。横尾さん愛用の英国レッツ社製デスク・ダイアリーに記された日記は、いわゆる「画家宣言」の年、1981年に始まり、35年分になります。夢の記録や作品のアイデア、身の回りのスケッチなど作品に直結するものと、名刺や写真、新聞記事、展覧会や舞台のチケット、旅行先の郵便局で押したスタンプといった日常の記録が混在したカオスのような日記は、作品と同じ空気をまとい、関心事の変遷は横尾作品の主題や様式の移行に重なります。研究資料としての価値もさることながら、その記録の手法にも横尾さんのアイデアが光るユニークな存在です。

ここでは、横尾さんの80歳の誕生日を記念して、異なる年の6月27日の日記を並べてみました。1995年の日記に貼られているのは、横尾さんと家族の証明写真。1997年には、この日鑑賞したサーカス&ミュージカル「ドリームエンジェル」の記述に加えて切り抜きとスケッチがあり、この日の夢が縦書きで綴られています。2002年にはインタビュー記事の切り抜きが、誕生日を病院で迎えた2014年の日記には、スタッフが預かってきたお祝いのカードが貼られています。こうした日常の記録のひとつひとつが、壮大な横尾ワールドの基礎を築いているのです。

平林 恵 | 本館学芸員

EVENT REPORT 01 ワークショップ「幻花de連歌」

2016年2月13日(土) 13:30-16:00 | 当館 オープンスタジオ(1F)、展示室

文章が出来上がってから描かれることの多い挿絵。しかし、横尾さんは瀬戸内寂庵さん原作の新聞連載小説「幻花」の挿絵を描くにあたり、文章が届くより先に描くこともあったそうです。そんなエピソードをヒントに、「連歌」の形式をかりて、参加者全員でオリジナル物語をつくるワークショップ「幻花de連歌」を行いました。

まず参加者全員で、小説「幻花」がどのような物語で、そしてどのような挿絵が描かれていたのかを展示室で鑑賞しました。戻ってきた参加者を待っていたのは、表面に挿絵が刷られたたくさんのカード。床に裏返しされたカードの中から一枚を選び、引き当てた挿絵を元に物語を考えます。何が出るか分からないドキドキ感とともに、恐る恐るカードを引くと、次々と摩訶不思議な絵が飛び出し、参加者を悩ませます。前の人の話を参照しつつ、時に迷走しながらも、最後には皆が納得する物語が出来上がりました。

藤原晴日 | 本館学芸員補助



横尾さんの作品に驚きながらも、熱心に説明を聞いています



どんな絵柄ががでてるかな？



奇想天外な物語が出来上がりました

EVENT REPORT 02 イブニング・キュレーターズ・トーク

2016年5月14日(土) 18:00-18:45 | 当館 オープンスタジオ(1F)

気持ちいい5月の夕暮れ時、「わたしのポップと戦争」展をわかりやすく解説する、イブニング・キュレーターズ・トークを開催しました。団体解説も含めて、展覧会中に担当学芸員は何度かスライドレクチャーをする機会があるのですが、やはり初回は緊張します。用意したスライドがちょうど時間に収まるだろうか、逆に足りなかったらどうしよう、とあれこれ考えながらお話しするのですが、今回は欲張って詰め込みすぎたようで、少々時間オーバーになってしまいました。



スライドを用いたわかりやすいレクチャー



ご来場ありがとうございました！

山本淳夫 | 本館学芸課長

EVENT REPORT 03 「BLITZ AND SQUASH BRASS BAND」

水道筋商店街パレード

2016年4月24日(日) 13:00- | 水道筋商店街、当館 オープンスタジオ(1F)

出演：鈴木健司(T.Sax)、井上純一(A.Sax)、小田進弘・井上敦之(Tp)、谷川新悟(Tb)、藤田将幸(Sousaphone)、横山隆史(S.Dr)、横山学(B.Dr)



オープンスタジオでのライブの様



ノリノリのバンドメンバー



商店街を演奏しながらパレード

当館1Fのオープンスタジオでは、毎月「オープンスタジオ・ライブ」を開催しています。近隣の関連施設や地域の方々との連携したイベントを行い、活気ある街づくりを目指している当館イチオシの企画として、この度、オープンスタジオ・ライブを近くの商店街に集う方々にも楽しんでいただくため、美術館でのライブ前に、阪急王子公園駅東側に位置する水道筋商店街でストリートパレードを実施しました。

当日は天候にも恵まれ、まさに行楽日和。13時のパレード開始後まもなく、通りすがりのお客様がブラスバンドの音色にすいよせられるように(中には演奏のリズムにのって踊りながら歩いておられる方も!)、演奏隊の後から当館までついて集まってくださいました。

美術館でのライブでは、爽やかな青空の屋外とは一転してライブハウス風の演出で、120名以上のお客様に「聖者が街にやってくる」などの名曲を楽しんでいただきました。

石橋美奈子 | 本館総務課職員

横尾さんの作品が NYタイムズのトップを飾りました!

ここ数年、特に海外の美術館において、横尾さんの1960年代の作品が、同時代のポップアートの国際的な広がりなかで捉え直される機会が相次いでいます。なかでも注目されるのが、昨年ウォーカーアートセンターを皮切りに米国内を巡回した「インターナショナル・ポップ」展です。このたび、そのフィラデルフィア会場に関するレビューがニューヨークタイムズ(ウィークエンドアート、2016年2月26日号)に大きくとりあげられ、横尾さんの《KISS KISS KISS》(1964年の映像作品のスチル)がフロントページに掲載されました。1960～70年代における世界規模でのポップアートの出現をとりあげ、再評価し、その位置づけを問い直すにあたって、ウォーホルやリキテンスタインなどポップアートを代表するアメリカの作家ではなく、あえて横尾さんの作品がトップに掲載されたのは、本館としても感慨深いものがあります。

山本淳夫 | 本館学芸課長

Editors' Choice MUSEUM SHOP・アーカイブルーム

MUSEUM SHOP 定休日: 休館日に同じ Tel: 078 855 5697



iPhone ケースはそのまま部屋に飾っても良さそうです



かわいいクリアファイルは注目されること間違いなし!

「コウモリ紳士」と、青・黄・赤のカラフルな色合いに溶け込む白いキャラクターが可愛い「ブルー」の二種類をご用意しています。また、人気商品のクリアファイルにも同じ絵柄が展開されているほか、新たに二種類の絵柄が追加されました。黒い海と白い空の波間を女性が漂う「空と海」はショップスタッフの一押しです。ぜひ、店頭にて確かめください。

藤原晴日 | 本館学芸員補助

アーカイブルーム

アーカイブルームでは、横尾さんのポスター作品などの“原稿”を保管しています。“原稿”と一口にいても、横尾さん直筆の細やかな描線の原画や、色や文字の配置などを示すための指定紙、コラージュの素材、構想段階のアイデアスケッチなど様々な段階のものが存在します。それら一式が一箱にまとまっていることもあれば、複数の箱に分かれている場合もあります。また、同一のモチーフが全く別の作品に使われていることがありますので注意しなくてはなりません。作品そのものだけでなく、資料の元々の並びなど保管状況にも留意しながら地道に調査を進めていくと、思いがけない発見があることも。次回企画展「ヨコオ・マニアリズム vol.1」では、その一端をご覧いただけます。

《マリリン・モンロー性の実録(集英社)》1969 作家蔵(横尾忠則現代美術館寄託)

奥野雅子 | 本館学芸員補助